

世界で高まる大幅利上げ減速観測



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 大幅利上げ一巡観測が高まりつつある

ECB（欧州中央銀行）は10月27日に開いた理事会で、2会合連続で0.75%の利上げを決めました。ただ、公表文では「3回連続の大幅利上げにより、理事会は金融緩和からの撤退を相当程度進められた」と指摘するなど、今後の利上げ幅縮小の可能性を示唆した格好です。

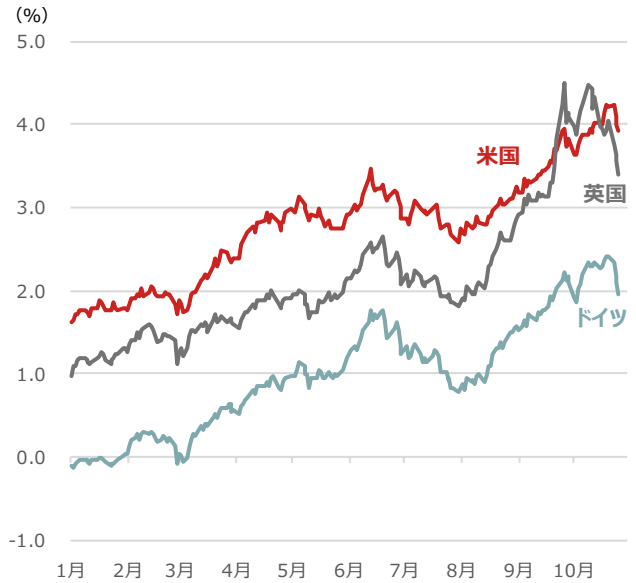
10月4日にオーストラリア準備銀行（中央銀行）が、利上げ幅を市場予想の0.5%に対して0.25%に留めたほか、26日にはカナダ銀行（中央銀行）も0.75%の利上げ予想に対して、利上げ幅を0.5%としました。大幅利上げ一巡の動きが世界で広がりつつあることを受け、米独英の10年国債利回りが上昇一服となるなど、世界的な金利上昇懸念が和らいできたようにみえます（右上図）。

ポイント② 11月FOMCの内容に注目が集まる

米WSJ（ウォール・ストリート・ジャーナル）が、FRB（米連邦準備制度理事会）が利上げペース減速について本格的に議論する公算が大きいと報じて以降、各中銀の過度な利上げ懸念は後退しています。今回のECB理事会を受け、市場が予想するECBの中銀預金金利（銀行が中央銀行に預ける際の金利）は、利上げペースの減速が鮮明となっており、来年9月の利下げ観測も出てきました（右下図）。同様にFRBやイングランド銀行（中央銀行）の大幅利上げ観測も後退するなど、各中銀の大幅利上げ姿勢は転換点を迎えつつあるのかもしれません。

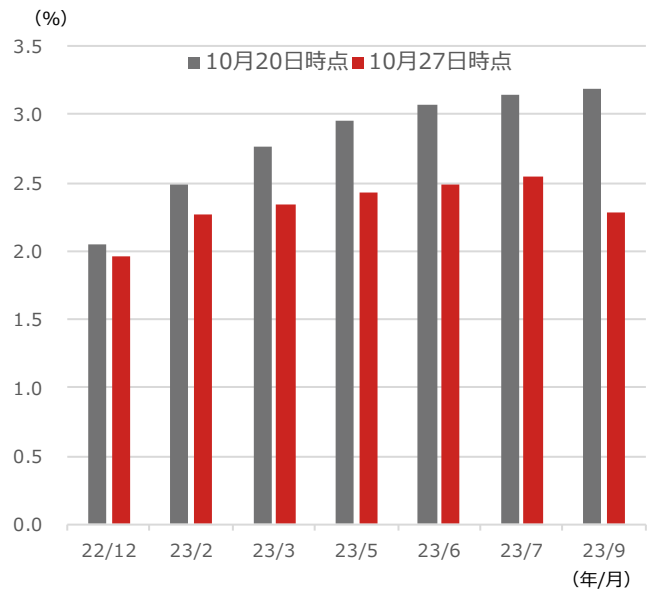
米景気後退を強く示唆するとされる米10年-3ヵ月国債利回り差が足元でマイナスに転じており、11月1～2日のFOMC（米連邦公開市場委員会）では先々の利上げペース減速が示唆される可能性があります。

米独英の10年国債利回り



期間：2022年1月3日～2022年10月27日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

短期金融市場が予想する
ECBの中銀預金金利の2時点比較



期間：2022年12月～2023年9月
・2022年12月～2023年9月ECB理事会（計7回）終了後までに予想される中銀預金金利
・10月20日はWSJ報道日前日、10月27日はECB理事会開催日
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一的見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。